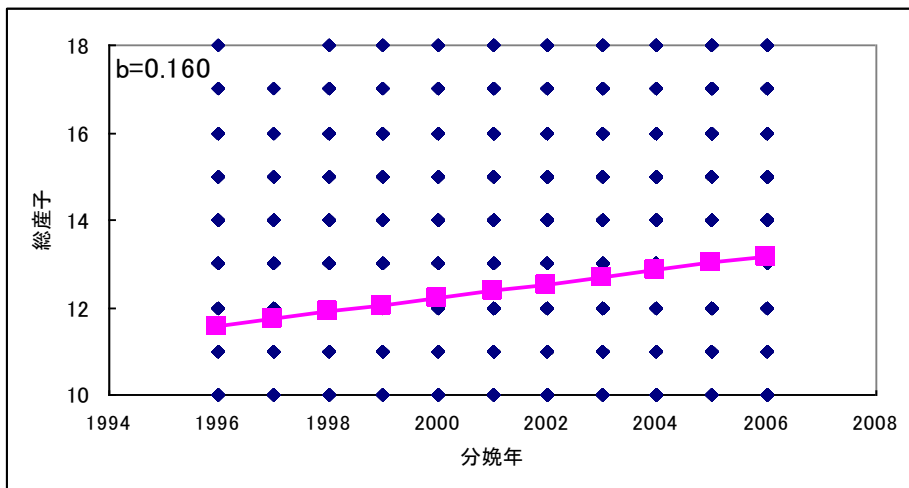
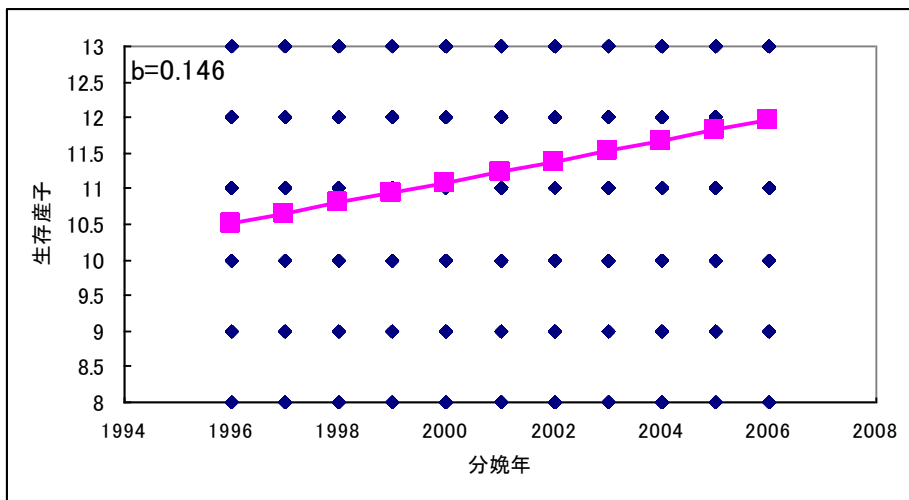


グローバルの育種事業の成果

グローバルピッグファームの育種改良に対する取り組みの成果は毎日の積み重ねです。育種改良は純粋豚でしか実施できませんが、原原種豚場で日々行われている全頭検定の結果は、コマーシャル生産をしている皆さんの生産成績に直結している興味深いデータをご紹介します。

群馬県内の、ある成績優秀なメンバー農場のデータをつかい、和豚もちぶたのお母さん(F1)に当たるGPクイーンの一腹当たりの生存産子数、総産子数の2つのパラメータを1996年から2006年までの10年間にわたりどのように変化していったかを集計分析しグラフにしてみました。限られたデータですが、最近10年で繁殖成績の遺伝的資質が確実に向上したことを示すよい指標ではないかと考えております。



10年という比較的短い期間に、生存産子数・総産子数ともに1.5~2.0頭の改善があったというのは驚くべきことと思います。全国的に産子数への要望が高い昨今ですが、結果はすぐには現われません。しっかりした科学的方向性と継続性あつての成果なのです。

2008年8月 グローバルピッグファーム(株)